

カワイイで 世界つなぐ

「カワイイ」をキーワードにした国際支援、国際理解の活動が広がっている。金城学院大(名古屋市守山区)の学生たちはカンボジアで現地の人たちと交流し、アクセサリなどを製作、収益を現地に届ける。若者に人気の女性モデルは、東南アジアのファッションをインターネットで発信し、現地との懸け橋となっている。(飯塚大輝)

金城学院大ゼミ

国際情報学部 佐藤奈穂准教授が指導するゼミの学生らでつくる「DIAGIRL(ディアガール)」。佐藤さんと学生十六人は今年八月末から九月にカンボジアを訪問。花を模したレース飾りの編み方を現地の人たちに手ほどきし、六日間、イヤリングなど約八百点を製作した。言葉は通じ

カンボジア支援

アクセサリ製作販売

ないが、身ぶり手ぶりでコミュニケーションし、子どもたちとも交流。三年生の富田亜莉沙さん(三)は「貧困のイメージがあったが、物が少なくても、いつも明るく暮らしている」と印象が変わったという。DIAGIRLは三年前、佐藤さんが研究対象としているカンボジアに貢献する活動をしよと始めた。学生がアクセサリをデザインし、シエムリアップの村人に製作を委託。金城学院大の文化祭やゼミのホームページで販売し、収益から給与を払う活動を続けている。昨年は商品がほぼ完売。約八十五万円を売



⑤カンボジアの人々とアクセサリを作る学生ら＝カンボジアシエムリアップ州の寺院施設で(「DIAGIRL」提供)
⑥レース飾りのついたイヤリングやガラス飾りのネックレスなど



り上げた。経費などを除き三割ほどを現地に送った。従来、支援目的の商品は民族柄などが多く、純粋にかわいく、手に取って

もらえる商品にこだわら編み方が複雑なレースで飾ったイヤリングや、ガラス飾りをあしらったネックレスなどで、種類も豊富、複雑な工程を現地の人に伝える難しさはあるが、「種類が多くて迷うから」と、ネット販売ではなく直接買いに来る人もいるなど好評だ。活動をきっかけに進路が変わった学生も。四年生の杉浦佑佳さん(三)は「テーマパークなどの華やかな職場を考えていたが、世界とかわる仕事がしたくなった」と、留学や国際交流などを扱う旅行会社への就職を決めたという。佐藤さんは「『カワイイ』というアプローチで、国際貢献に関心がなかった人にも興味を持ってもらい、結果的に支援につながれば」と話す。

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

2018年12月5日 中日新聞社より

(c) .中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています